

経済FOCUS

まとめ

- 燃やしても実質的に二酸化炭素が増えない
- 食べ物以外の原料から、もっと作る必要。最近はミドリムシにも注目

ます

永田かすみ
さん「日本はこれからバイオ燃料をどう使っていくのですか」
池田さん「政府は法律で、17年度に原油にして50万キロ、毎年、1年間に消費するイオエタノールにする目標を決めています。日本が注目しているのは、農作物の茎や葉、草木など、食べ物以外の原料です。『セルロース』という植物の成分があれば、エタノールを作れます」

かすみさん「バイオ燃料が増えると、食べ物が足りなくなると聞きました」
博士「確かに頭の痛い問題だ。燃料としての生産が増えると、その分、食べ物が不足したり、値上がりしたりするかもしれません。恐れがある。その結果、食べ物が不足したり、値上がりしたりするかも知れない。バイオ燃料の普及を進めている欧米は、『燃料と『食料』のバランスを取っている。やはり食べ物以外の原料で作るバイオエタノールをどれだけ増やすのかが大事なんだ』

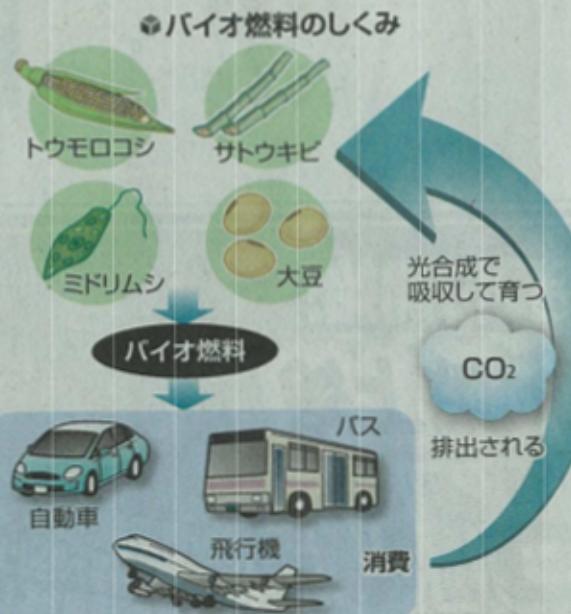
再生可能エネルギー 太陽の光や、風力、水力、地下深くにある高温の蒸気など、繰り返し使えてなくなるエネルギー。植物など資源を使うバイオ燃料も含まれる。利用を増やせば二酸化炭素の排出が少なくなり、地球温暖化の防止につながる。

第1次石油危機 1973年、石油の値段が急上昇して世界経済が大混乱したこと。第4次中東戦争で、イスラエルと対立するアラブの石油輸出国が原油の値上げと供給制限を行ったためだ。原油価格は4倍近くになり、日本経済も大打撃を受けた。

食物不足の回避が課題



大手町博士のわかる! 経済



が課題です

バイオ燃料 温暖化防ぐ

聞くけれど何のことなの

大手町博士 「自然の力を利用する再生可能エネルギーの一つで、サトウキビやトウモロコシといった植物などをから作る燃料のことなんじゃ。生きみや家庭の排せつ物から作る場合もある。バイオマスとも呼ばれていて、ガソリンや軽油の代わりになるんだ。バイオ

は『生き物』、マスは『集團・かたまり』という意味なんじゃ」

自動車の排ガスをきれいにしようと、トウモロコシなどで作った燃料が広がりました。軽油で走る車が多いです。米国は90年代に、

0年代の第1次石油危機の経験から、自分の国のオエタノールを多く使う国では、ブラジルや米国が有名です。ブラジルは1970年代に、ガソリンの消費量の20%以上が、バイオエタノールです。米国は90年代に、

自動車の排ガスをきれいにしようと、トウモロコシなどで作った燃料が広がりました。軽油で走る車が多いです。米国は90年代に、0年代の第1次石油危機の経験から、自分の国のオエタノールを多く使う国では、ブラジルや米国が有名です。ブラジルは1970年代に、ガソリンの消費量の20%以上が、バイオエタノールです。米国は90年代に、

かぶとくん「たくさん使われているのかな」
日本エネルギー経済研究所所長 池田隆男さん 「ガソリンの代わりにバイ

オエタノールを多く使う国では、ブラジルや米国が有名です。ブラジルは1970年代に、ガソリンの消費量の20%以上が、バイオエタノールです。米国は90年代に、

かぶとくん「藻の一種のミドリムシなどから燃料を作ろうとするニュースも聞いたよ」

かぶとくん「たくさん使われているのかな」
日本エネルギー経済研究所所長 池田隆男さん 「ガソリンの代わりにバイオエタノールを多く使う国では、ブラジルや米国が有名です。ブラジルは1970年代に、ガソリンの消費量の20%以上が、バイオエタノールです。米国は90年代に、



日本で採れるサトウキビもバイオ燃料に使える(沖縄・伊良部島で。昨年3月撮影)

飛行機への利用も検討